

第2章 伊豆諸島の現況

本章では、伊豆諸島のこれまでの沿革と現在置かれている地理的・社会的状況を示すため、具体的な指標を用いて記す。

1 沿革

- 本地域は、古くから伊豆七島と称されており、縄文・弥生式土器や遺跡の発掘等から、先史時代から人が住み着いていたことが立証されている。
- 江戸時代は徳川幕府の直轄地として、本土と異なった制度の下にあった。
- 明治時代に入り、韮山県、足柄県、静岡県とその所属が変遷した後、明治11(1878)年に東京府へ編入された。
- 明治41(1908)年に大島と八丈島で島嶼町村制^(注1)が施行されて以降、各島において村の設置が進み、昭和28(1953)年の離島振興法成立時には、23村が設置されていた。その後、昭和の大合併により合併が進み、昭和31(1956)年に三宅島の旧3村が合併したことをもって2町6村になり、現在に至っている。
- 伊豆諸島全体が富士火山帯に属しているため、いにしえより火山活動による被害を被ってきた。とりわけ、大島の三原山、三宅島の雄山では頻繁に噴火活動が起こってきた。また、青ヶ島では1780年代の噴火により50年間無人島になった還住の歴史がある。
- 近年では、昭和58(1983)年における三宅島阿古地区の住宅の焼失・埋没、昭和61(1986)年における大島の約1か月間の全島避難などの被害が発生している。
- さらに、平成12(2000)年には、三宅島の噴火、新島・神津島近海地震が発生し、多大な被害をもたらした。とりわけ、三宅島にあっては、4年以上にも及ぶ全島避難を余儀なくされ、平成17(2005)年に帰島を果たしたところである。



昭和61年の大島・三原山噴火



平成17年の三宅島帰島風景

(注1)島嶼町村制：明治政府の勅令により定められた、本土とは別に島しょ部のみに適用された地方制度

2 地勢

- 伊豆諸島地域は、東京から約100kmから約350kmの南方海上に位置し、9島の有人離島（大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、及び青ヶ島）及びその他の無人島が点在している。
- 9島の面積合計は約300km²で、区部の面積の約半分である。
- 全体が富士火山帯に属する火山島であり、火山の頂が海上に突出しているなど、地形が急しゅんであるため平坦地は少ない。また、海岸は海蝕により切り立った断崖となっているなど、湾入部が少ないという特徴がある。
- その存在により、日本の領海の約6.5%（約2万km²）、排他的経済水域の約11.6%（約51.9万km²）を確保している。

3 気象

- 年平均気温は16度から18度までと温暖であり、気温差は小さく降霜・降雪は少ない。
- 四国や九州と同緯度に位置するが、暖流である黒潮が接近して流れているため、比較的暖かである。
- 年降水量は2,000～3,000mm程度と多く、温暖多雨の海洋性気候である。
- 春、秋には北東風が、11月から3月までの間は西風、南西風が強く吹くことが多い。また、台風来襲地帯であるため、波浪、風雨による被害を被ることが多い。

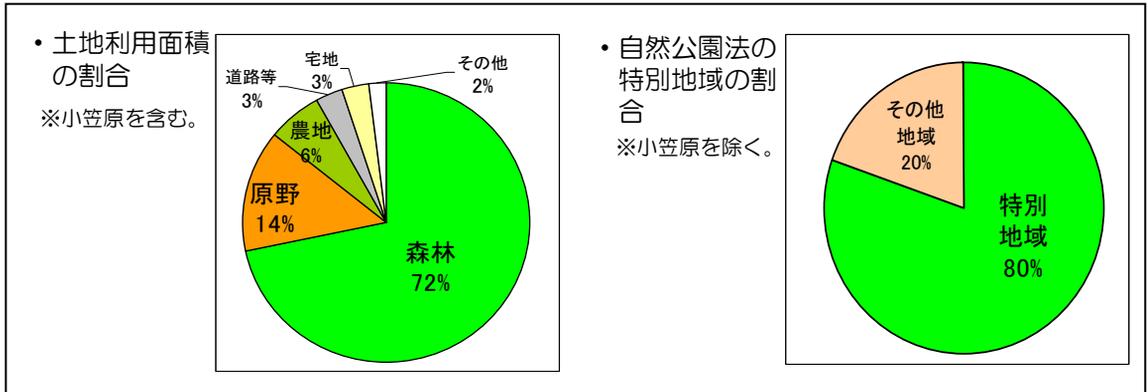
観測地別平均気温													(単位：℃)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年平均
東京	5.1	7.0	8.1	14.5	18.5	22.8	27.3	27.5	25.1	19.5	14.9	7.5	16.5
大島	5.9	8.3	8.8	13.9	17.3	21.6	25.4	25.9	24.2	19.0	15.8	9.0	16.3
三宅島	8.1	10.8	10.4	15.3	18.9	22.3	25.7	26.7	25.0	20.7	17.8	12.0	17.8
八丈島	7.8	11.3	10.7	15.1	18.8	22.0	25.3	26.3	24.6	20.9	17.9	12.0	17.7

観測地別総降水量													(単位：mm)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年総量
東京	3.5	151.0	74.0	96.0	213.5	116.5	54.5	244.0	235.0	119.5	112.5	59.5	1479.5
大島	9.5	306.5	118.5	131.5	308.0	160.0	163.0	122.5	273.5	291.5	213.5	112.5	2210.5
三宅島	15.0	308.5	128.5	187.5	326.0	228.5	128.0	199.5	226.5	336.5	297.5	344.0	2726.0
八丈島	130.0	233.0	165.5	150.0	431.0	298.5	154.5	375.5	249.0	355.0	231.5	264.0	3037.5

※ 気象庁「気象統計情報」より

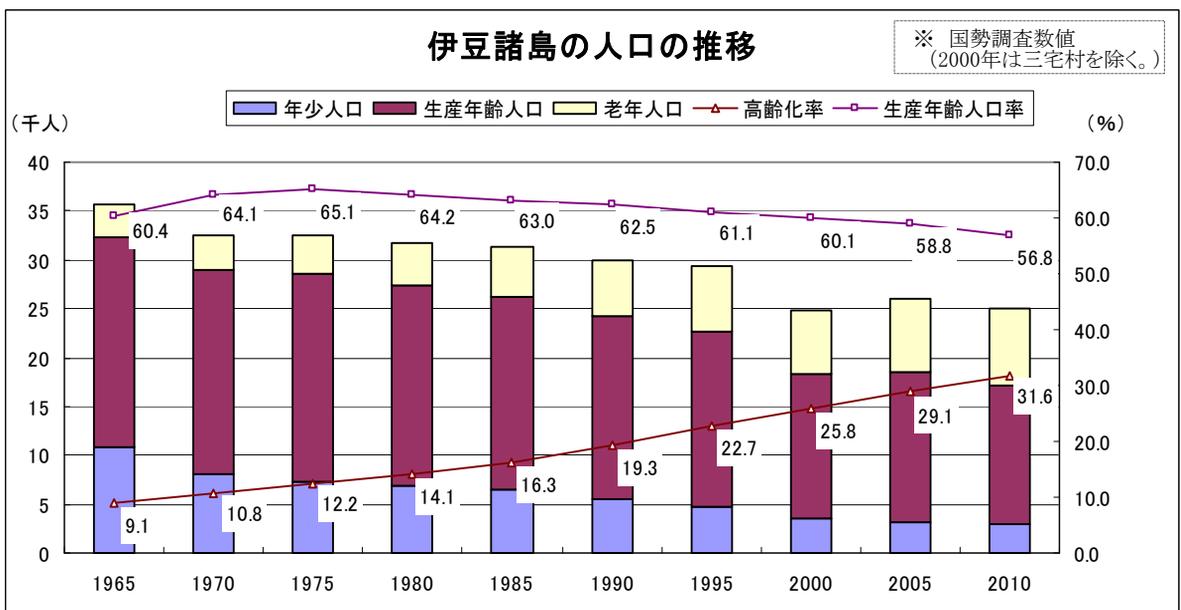
4 土地利用

- 富士箱根伊豆国立公園のエリア（青ヶ島を除く。）に指定されており、各島の大部分が自然公園法上の特別地域(注2)となっている。
- 森林・原野の占める割合が高く（約86%）、宅地や農地の割合は低い。



5 人口

- 伊豆諸島全体における平成22年国勢調査の人口は、25,030人となっており、減少傾向が続いている。
- 高齢化の進行と生産年齢人口率の減少も続き、同調査の高齢化率は31.6%、生産年齢人口率は56.8%となっている。



(注2)特別地域：自然公園法に基づき、国立・国定公園内の「風致を維持」するために指定された保護地域